

障害年金2900人停止 猶予なく「不公平」の声

障害のある人に支払われる国の障害基礎年金で、20歳以降に障害を負った受給者のうち約2,900人が「状態が軽くなった」として、昨年4月から1年間に支給を打ち切られていたことが1日、分かった。

一部の人は、日本年金機構が審査業務を一元化した影響を受けた可能性がある。機構は20歳前から障害がある人には1年間の猶予を設けており、対応の差に「不公平だ」との声が出ている。

1日の衆院厚生労働委員会で共産党の高橋千鶴子氏の質問に厚労省が明らかにした。加藤勝信厚労相は「しっかり精査し必要な対応を考えたい」と述べるにとどまった。

障害基礎年金の支給判定は、以前は都道府県ごとに機構の認定医が担っていたが、地域格差が問題となり、昨年4月に東京の障害年金センターに一元化した。

昨年度は一元化して1年目だったため、機構は20歳前障害で支給停止と判定された約千人には1年間支給を続け、再審査すると決定。厚労省は「20歳前障害の人は長年同じ診断書で支給されてきた人が多いため、配慮が必要と判断した」としているが、20歳以降に障害を負った人の中にも長期間の受給者はいる。障害基礎年金の受給者は17年3月末時点で約184万人。うち20歳以降に障害を負った人は約80万人。

《2018年06月01日共同通信》

障害年金打ち切り問題運動の力で一定の配慮！新規申請者にとっては厳しい認定になる！

7月4日（水）、厚生労働省との交渉を行いました。国会厚生労働委員会で加藤勝信厚生労働大臣が障害年金問題の対応について答弁をして、新聞で打ち切り対象になっていた人たちが「全員が継続」という報道が流れました。そのため、交渉ではこのことについての説明と議論が中心になりました。

説明では、障害年金センターに一元化されて認定医と事務局体制が一斉に変わったという事情を考慮し、認定医が認定を行う際には、従前の判定結果を「推察」しながら判定を行うということです。機械的に1,010人を継続していくことではないという説明でしたが、多くの患者がこれで継続されることは間違いありません。また、これから再認定を受ける人たちも、同様の考え方で対応するという事です。このように、短時間で方針転換をしたのは、守る会をはじめとした当事者が声をあげた運動の力によるものです。

しかし、これで問題が解決したわけではありません。1級から2級に降級された人に対しては、何の対応も考えておらず、その人数すらつかんでいませんでした。認定一元化という同じ理由で等級が下がったのに、公平性を欠いた対応と言わざるをえません。また、通知をした1,010人に対して、方針が変わったことを個別に知らせることはしません。大臣は「一人ひとり丁寧に対応をしていく」と発言しているのに、本当に障害者を救済しようという姿勢があるのか疑問が残ります。さらに、今回の打ち切り対象になったうちの約半数が心疾患だったことを考えると、これから新たに申請をする心臓病者にとっては、容赦のない厳しい裁定がまっているということが明らかです。

守る会としては、通知をもらった人もあきらめずに申請をするよう伝えることが大事です。再申請の認定結果がどのようなのか注意をして、どのような結果が出されているのも見なければなりません。また、新たな申請者がきちんと年金を受給できるよう、根本的な問題改善を求めて引き続き運動をしていくことが必要です。

《全国心臓病の子どもを守る会「守る会事務局通信ハットはっと」》より

活動報告



～地域社会の社会資源を学ぶ～ に参加して・・・

6月の家族交流会は多摩棕櫚亭協会理事長の小林由美子さん「地域の社会資源を学ぶ」をテーマにお話をいただきました。



今から30年以上前に劣悪な環境の精神科病院から退院後の地域の中の居場所として共同作業所としての棕櫚亭を立ち上げ、その後制度の改正に基づき就労移行支援事業所ピアス、オープナーを開所、また、地域で生活するための様々な相談と支援をする「なびい」更に、生活訓練事業所などについて解りやすく話してくれました。

シュロの会の会員の中には市外在住の方々も多く、国立市は恵まれたいい所だと聞きます。それというのも「多摩の精神医療を変えたい」との熱い思いをもった4人の女性たちが奮闘してくれたのだからと今更ながら思いました。

私たち家族会「精神保健福祉家族会シュロの会」と名称を変えました。頼りになる力強い会員も沢山増えてきています。

親の会として今後も悩みを共有し支えあいながら前に進んでいけたらと思います。 U. I

互いに協力し合い、地域とも連携し支援
棕櫚亭の4つの事業所



○ 当事者交流会「通称 たんぽぽの会」の開催報告

6月23日の土曜日、くにたち福祉会館大ホール控室におきまして、当事者の方の集いがありました。

使用した部屋は落ち着きやすく、4階からの国立の街を眺めながら開放的でした。精神保健福祉家族会シュロの会の植松会長も加わり、とても自然な雰囲気の中で、あっという間に時間が過ぎていきました。

当事者の方の普段の状況や悩み、通院している病院の医師のこと・・・

健康な人にとってはとりとめもない話も、当事者の皆さんには貴重なことです。

これからもこのような空間をご提供できるように、「たんぽぽの会」を開催していきたいと思っています。

通称

たんぽぽの会



※参加費は無料です！！

私はね・・・

なるどね・・・

僕は、こう
しているん
だけど

リラックス
リラックス



今後の活動予定



○ 第2回交流会 「お薬のことをもっと知ろう！」

平成30年2月27日に日本神経精神薬理学会による『統合失調症薬物治療ガイドー患者さん・ご家族・支援者のためにー』が公開されたことから、この機をとらえて家族会員としても薬の知識を身につけようと学習会を開催するものです。

家族会による自主学習会ですので、初歩の初歩を少しずつ勉強しますのでお気軽にご参加ください。当日は、処方されている薬がわかるもの（お薬手帳、薬の説明書、診療明細書等）をご持参ください。

【到達目標】

- 処方されている薬の種類を把握している
- シュロの会の会員間では、薬の投薬量をC P換算値で情報交換が行われるようになっている

日 時 10月14日（日）午後1時30分

場 所 国立福祉会館

東京都国立市富士見台2丁目38-5

主 催 精神保健福祉家族会シュロの会

○ 市民講演会「身近な病気 統合失調症」

講 師 白石 弘巳 氏 精神科医 済生会鴻巣病院副院長

日 時 9月9日（日）午後2時～4時

場 所 小平市中央公民館ホール

東京都小平市小川町2-1325

参加費 無料 定員180名 申込みは不要（直接会場へお越しください）

主 催 小平市けやきの会 042-343-4559（小嶋）

○ 第3回ミニ交流会・家族相談日

病気のこと、薬のこと、病院のこと・・・ひとりで悩まないでください。その話をお話ください。精神保健福祉家族会シュロの会では、会員同士がお互いに自分のこととして考え、悩みを聞き、問題を分かち合い、当事者やその家族の負担が少しでも軽減できるようミニ交流会・家族相談を開催しています。是非ご参加ください。お待ちしております。

日 時：9月16日（日） 午後1時30分から

場 所：くにたち福祉会館

主 催：精神保健福祉家族会シュロの会

編集後記

暑い！暑い！ホントに暑いですね。しばらくは体温越えの暑さが続くようです。庭のヒマワリが20本ほど成長しました。あと2～3日で咲く勢いです。カンカン照りの太陽の下で咲くヒマワリの花を見て、ちょっとだけ元気を分けてもらうことにしましょう。夏を乗り越えられそうで・・・。

